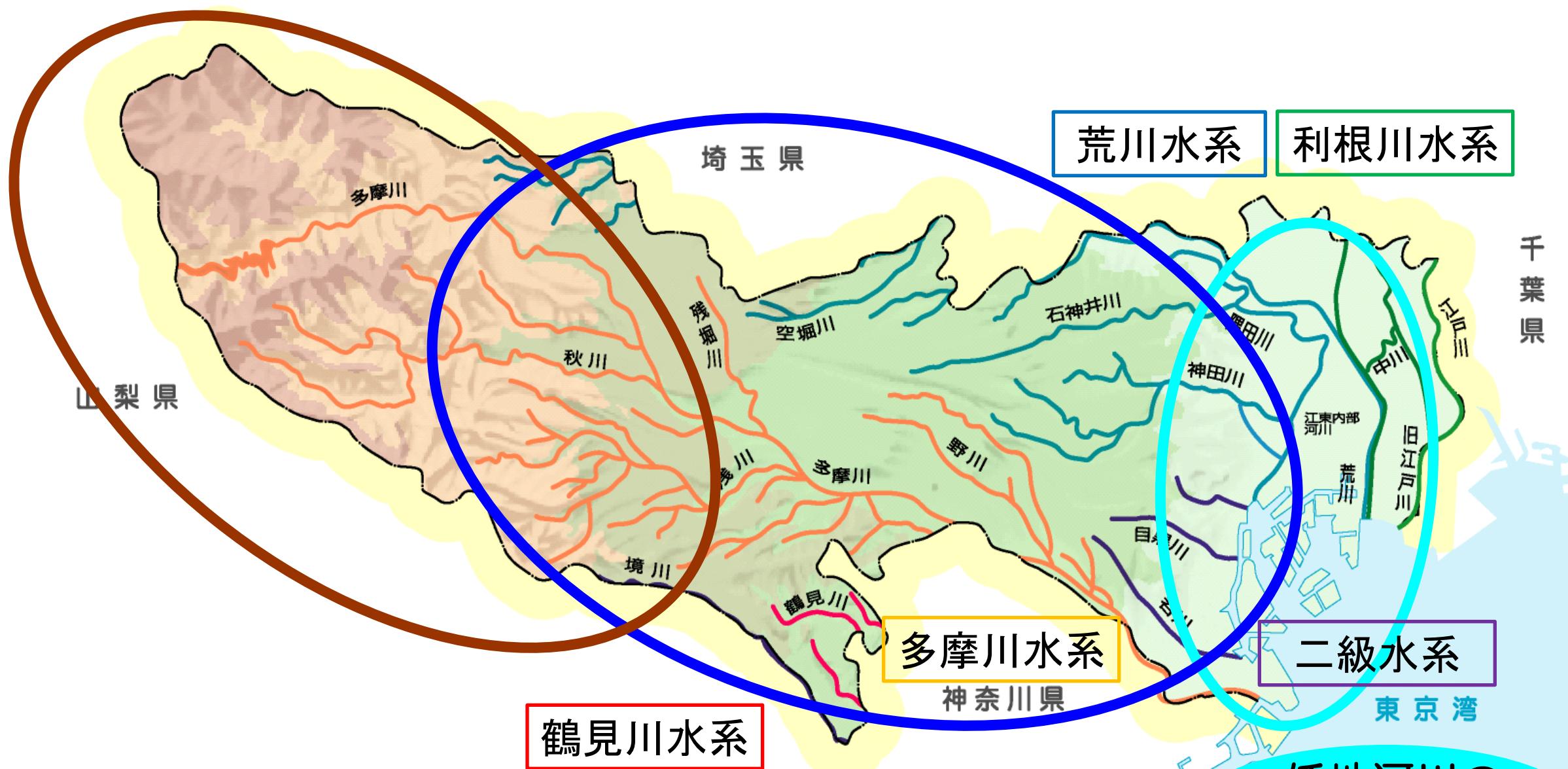


東京都の河川事業について

東京の河川事業について

○東京の河川は、概ね西部から源を発して東京湾へ流下する河状を呈しており、4つの一級水系と直接海へ注ぐその他の二級水系に大別される。



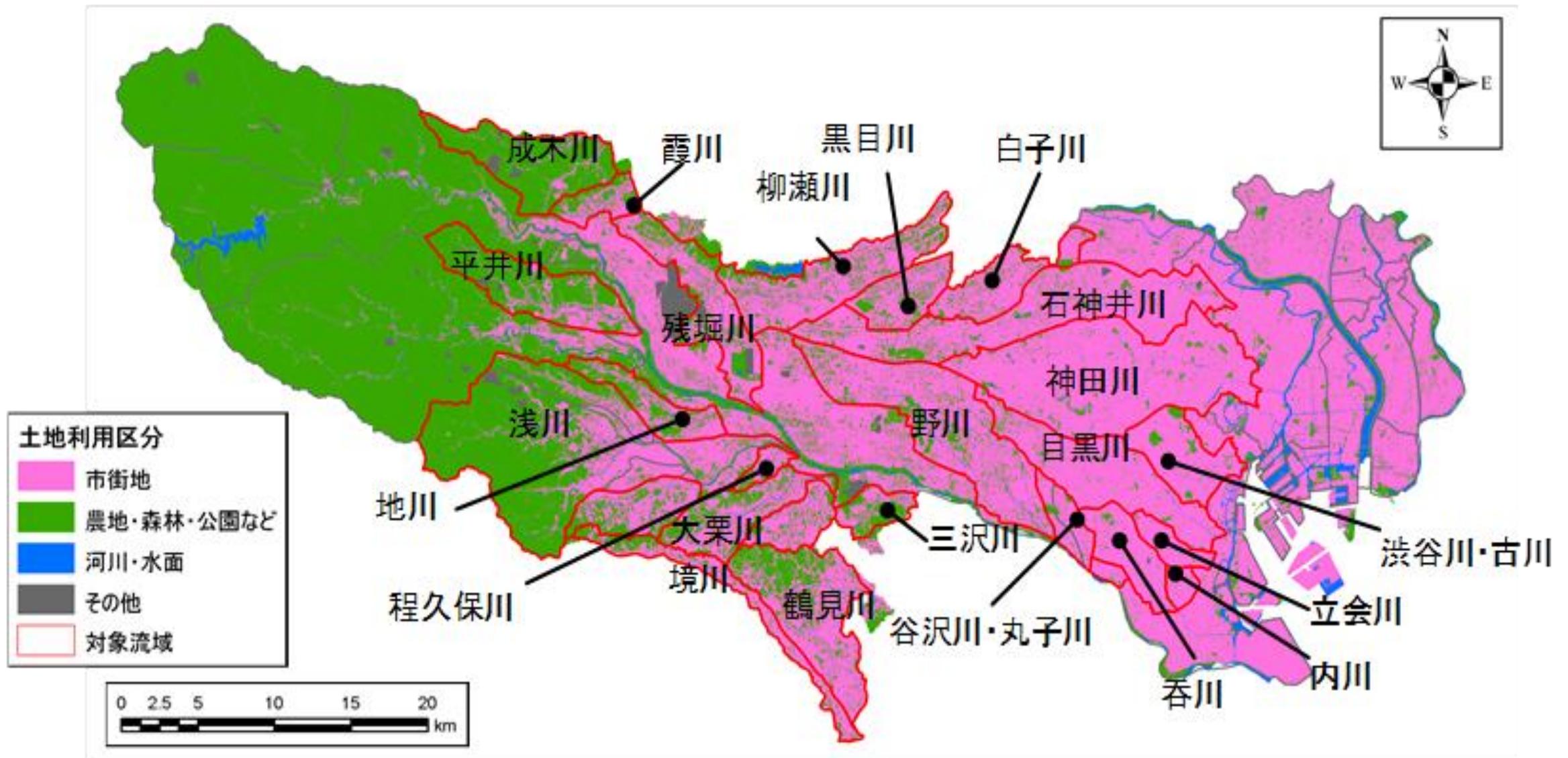
土砂災害対策

中小河川の洪水対策

低地河川の
高潮・地震対策

親水空間整備による都市の魅力向上

中小河川の洪水対策



野川(糟嶺橋付近)



古川(三田・麻布十番付近)



中小河川の洪水対策

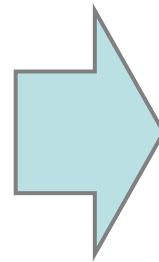
これまで

整備水準：1時間に50ミリの降雨に対応

全体計画：46河川、324kmの護岸整備

整備にあたって

- 河道の拡幅を基本
- 調節池や分水路を効果的に配置



安全性の早期向上に取り組む

河道の拡幅



石神井川 (練馬区)

調節池の整備



黒目川・黒目川調節池
(東久留米市)

分水路の整備



神田川・高田馬場分水路
(新宿区)

中小河川の洪水対策

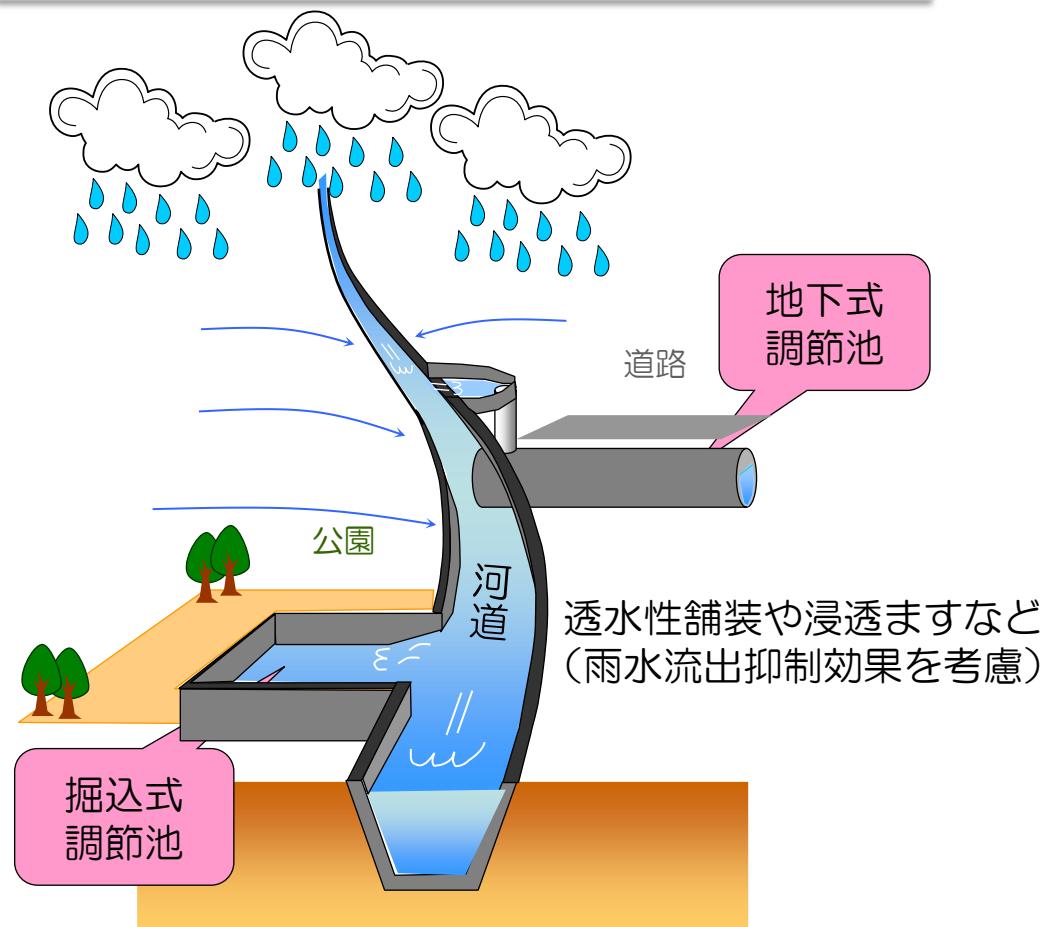
○平成24年11月

「中小河川における都の整備方針」を策定

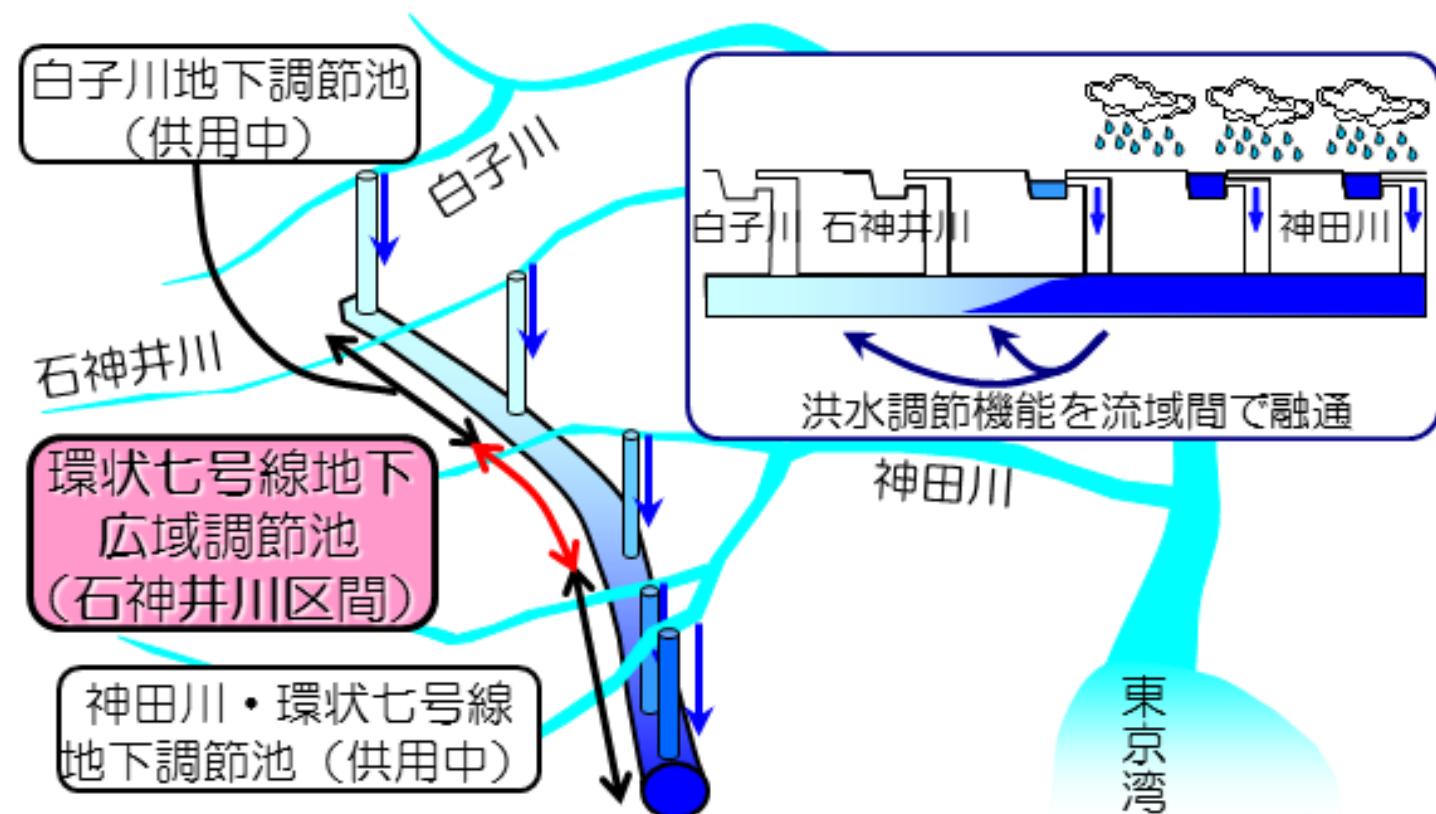
現在の時間50ミリ降雨への対応から、区部河川では時間75ミリ、多摩部河川では時間65ミリ降雨に(どちらも年超過確率1/20のレベルに相当)目標整備水準を引き上げ、河川からの溢水を防止する。

【整備の考え方】

○ 道路下や公園等の公共空間を活用し効率的に整備



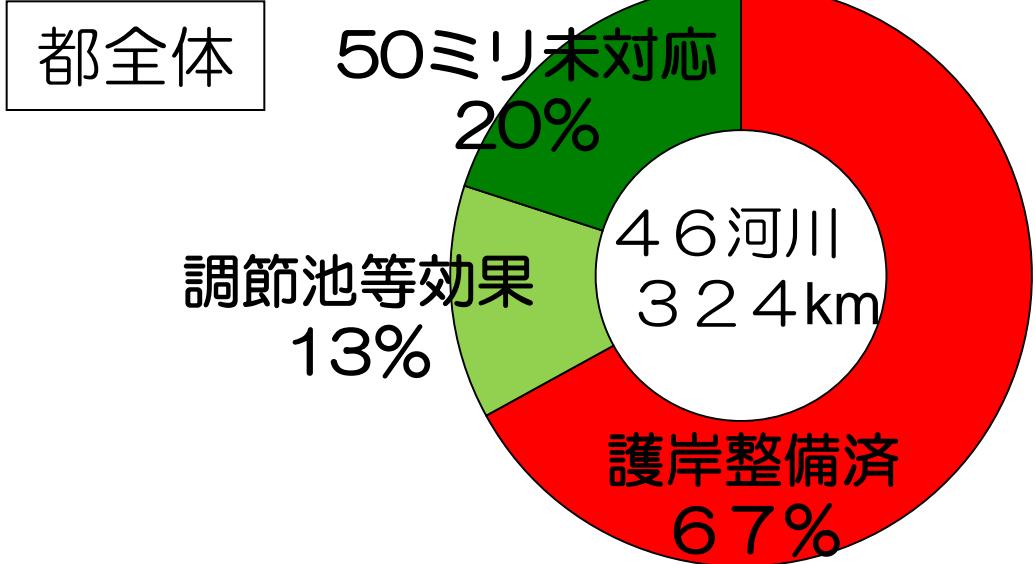
○ 広域調節池による調節池機能の流域間相互融通で局地的集中豪雨に対し、高い効果を発揮



中小河川の洪水対策

護岸整備率（平成28年度末時点）

※治水安全度達成率とは、護岸整備率に調節池等の整備の効果を加えた達成率

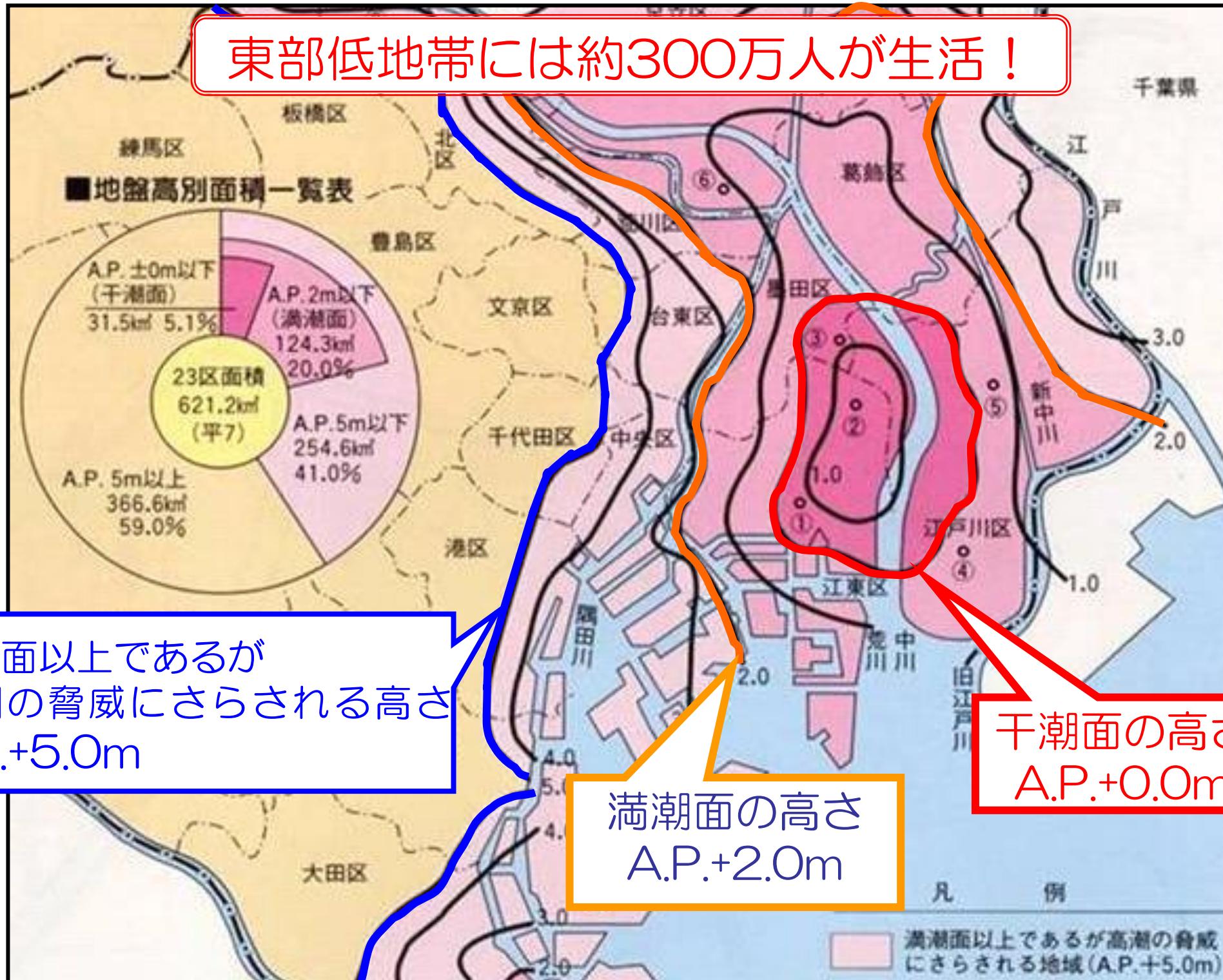


時間50mm降雨に対する治水安全度達成率※：80%



低地河川の高潮・地震対策

東部低地帯には約300万人が生活！



満潮面以上であるが
高潮の脅威にさらされる高さ
A.P.+5.0m

満潮面の高さ
A.P.+2.0m

干潮面の高さ
A.P.+0.0m

堤防が破損すると、甚大な水害が発生する恐れ

低地河川の高潮・地震対策

◆スーパー堤防等の整備

東部低地帯の主要5河川(隅田川・中川・旧江戸川・新中川・綾瀬川)については、大地震に対する安全性を高めるとともに、水辺環境の向上を図るため、コンクリートの堤防を順次スーパー堤防や緩傾斜型堤防に改築している。

●スーパー堤防及び緩傾斜型堤防実施(計画)状況図



東部低地帯の耐震・耐水対策
(スーパー堤防等)整備率
約61%
(平成28年度末時点)



現況の高潮防潮堤



スーパー堤防イメージ図



整備前



整備後

新川・箱崎地区(中央区日本橋箱崎)

親水空間整備による都市の魅力向上

にぎわいづくり



隅田川「かわてらす」(清澄)

テラスの夜間照明



隅田川「かわてらす」(清州橋下流)

防災船着場の整備



明石町防災船着場

親水空間の整備



小名木川

土砂災害対策

【土砂災害に対する基本理念】

土砂災害による犠牲者ゼロを目指す

土砂災害のおそれのある箇所約15,000箇所に対して、ハード対策のみで対応するのは困難

「人命の保護」を最優先に
災害対応力の向上・充実のための総合的な土砂災害対策を実施

① 施設の充実と強化

人命の保護効果の高い施設を優先的に整備

- ◆ 地理条件や地形条件により代替施設がない避難所の保全
- ◆ 避難が困難と見込まれる主として防災上の配慮を要する者が利用する施設の保全

■土石流対策及び急傾斜地崩壊対策事業について、緊急性の高い砂防関係施設を優先的に整備

② 防災意識の向上

実効性の高い警戒避難体制の整備を促進

- ◆ 住民に情報を確実に知らせる対策
- ◆ 災害発生時の切迫性がわかる情報提供や緊急時の情報伝達体制の整備
- ◆ 早めの避難を実現するため、住民の防災意識の向上

■土砂災害警戒区域等の指定
■土砂災害警戒情報の精度向上
■地区単位のハザードマップ作成支援、防災教育 等

③ 自助努力への支援

土砂災害に対する安全な土地利用の推進

- ◆ 中長期的には、安全な場所でのまちづくりを目指す
- ◆ 特別警戒区域内の既存家屋に対する移転・補強支援
- ◆ かけの対策に対する支援

■住宅建築物安全ストック形成事業の活用
■地域住宅計画に基づく事業の活用

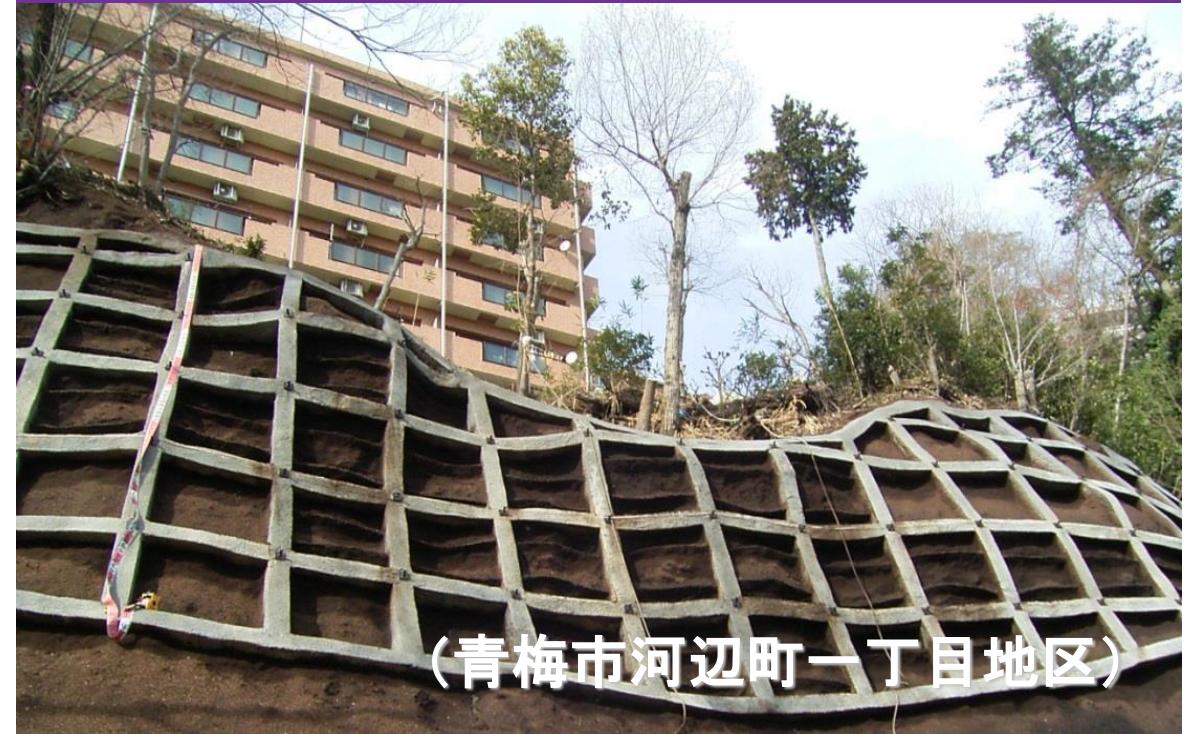
(都市整備局所管)

土砂災害対策

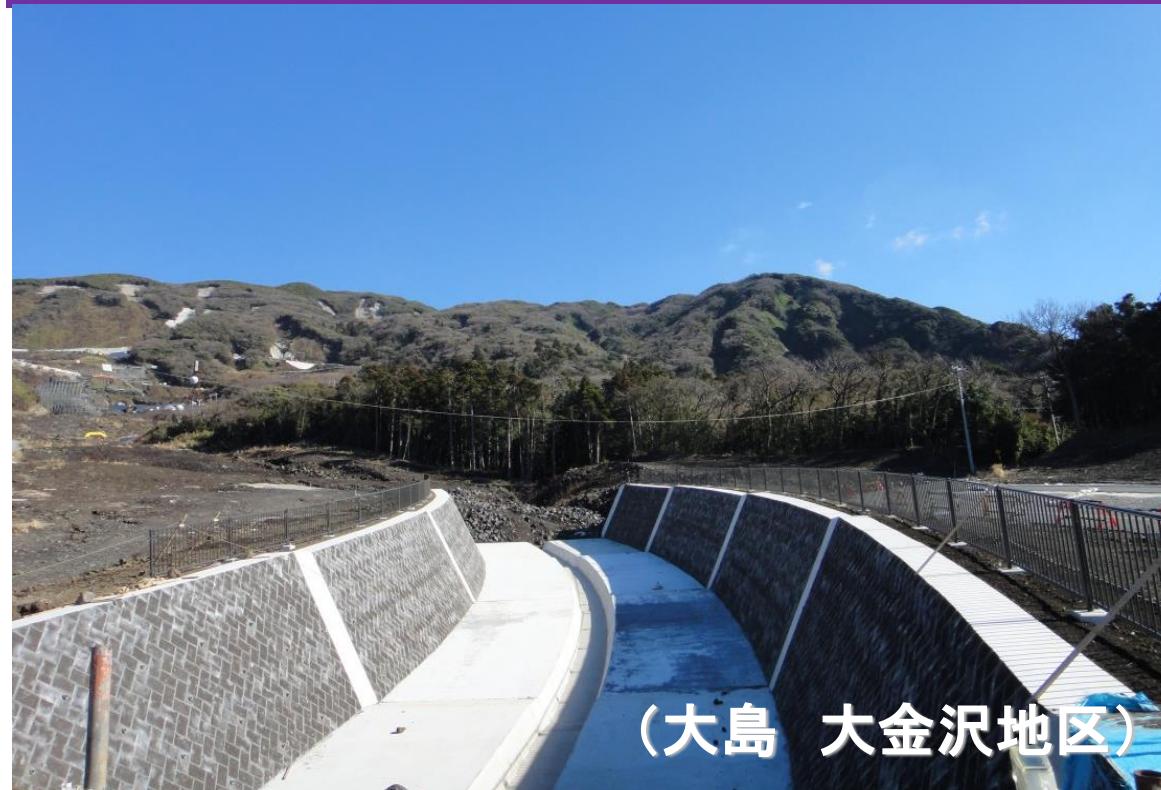
土石流を抑える砂防えん堤



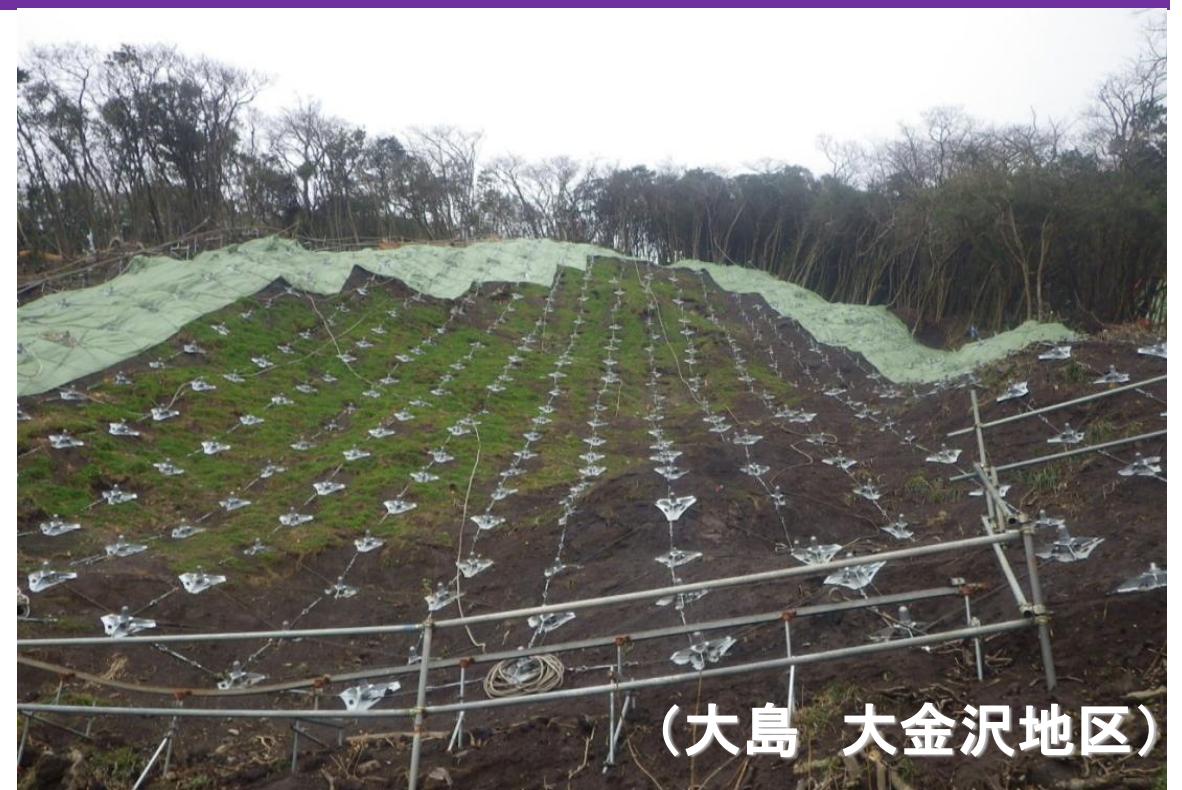
急な斜面を保全する法枠工



土石流の流れる方向を制御する導流堤



崩壊した斜面を安定した地盤とする山腹工



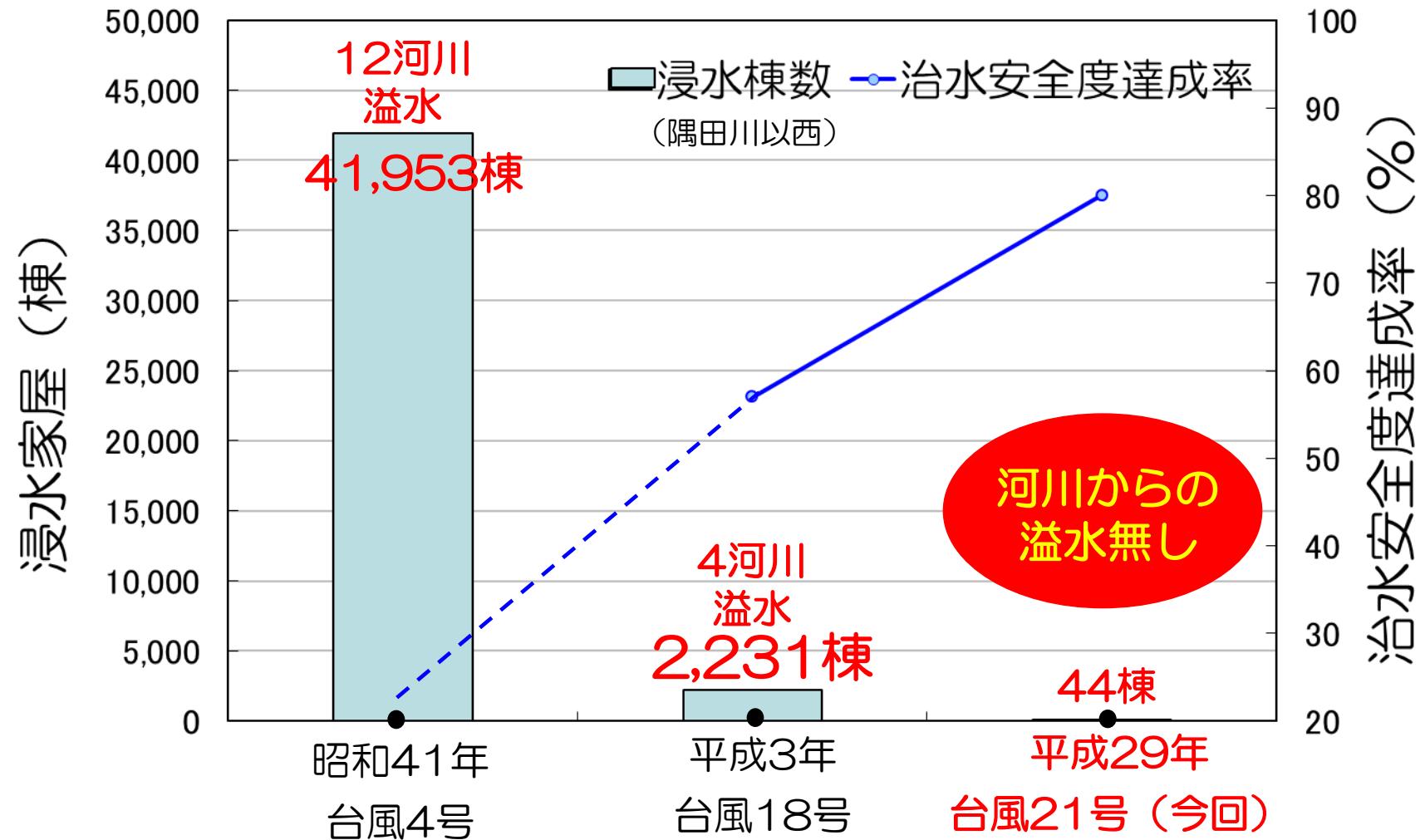
平成29年台風第21号における整備効果

調節池への取水状況について

	河川名	調節池名	貯留率
1	白子川	白子川地下調節池	80%
2	神田川	神田川・環状七号線地下調節池	17%
3	霞川	霞川調節池	99%
4	黒目川	黒目川調節池	29%
5	野川	野川大沢調節池	47%
6	善福寺川	善福寺川調節池	89%
7	石神井川	富士見池調節池	77%
8	柳瀬川	金山調節池	29%
9	目黒川	荏原調節池	6%
10	白子川	比丘尼橋下流調節池	5%
11	妙正寺川	上高田調節池	6%
12	石神井川	南町調節池	61%
13	善福寺川	和田堀第六調節池	4%
14	妙正寺川	北江古田調節池	9%
合計	10河川14調節池		30%

→都内28調節池のうち
14調節池に洪水を取水

同規模台風との比較



総雨量303mm 時間最大33mm	総雨量376mm 時間最大60mm	総雨量345mm 時間最大53mm
----------------------	----------------------	----------------------

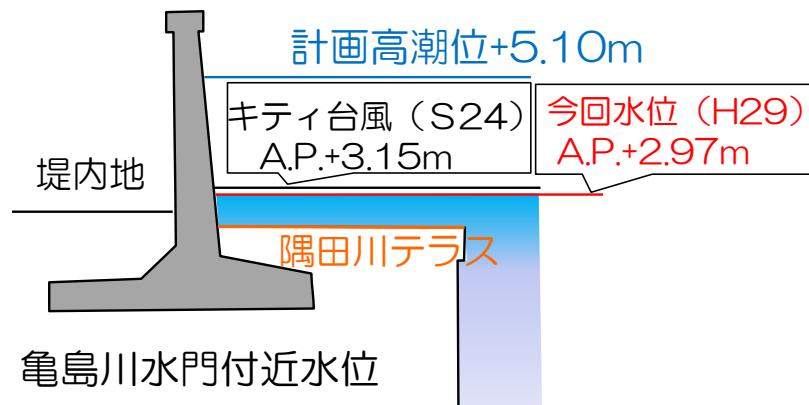
→1960年代に着手した中小河川整備により、
時間50mm程度の同規模台風による
浸水被害は着実に減少

河川からの溢水被害なし

平成29年台風第21号における整備効果

台風襲来時の水位状況

都内38年ぶりの高潮警報



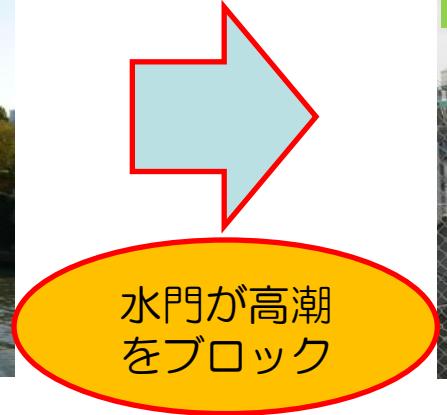
台風襲来時の河川状況

隅田川 駒形橋上流左岸（墨田区）



平成29年10月23日

隅田川 大島川水門（江東区）

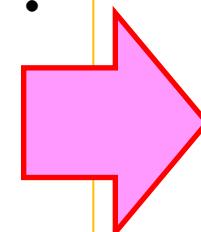


平成29年10月23日

S24.8キティ台風
(浸水被害約14万戸)
と同規模の高潮が発生

もし、同様の高潮が発生し、堤防や水門がなかったら・・・

- 想定被災人口 : 約250万人
- 想定浸水面積 : 約176km²
- 想定被害額 : 約60兆円
- 想定浸水家屋 : 約46万棟



高潮による被害無し

東京都管理河川の氾濫に関する 減災協議会

東京都建設局河川部